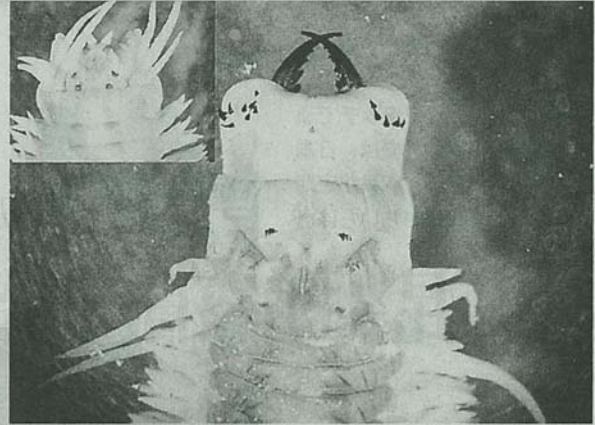


朝日新聞 2011(平成23)年8月13日(木) 子ども佐賀新聞

県立美術館は今年も、子どもたちを対象にした「夏休み子どもミュージアム」を開催しています。今回は昔と今の「生きもの」(動物、植物)がテーマ。題して「いきもの いま・むかし」。化石や標本、あるいは美術品を通じて、生きものたちが人間との深い関わりの中で生きてきたことを学んでください。展覧会の見どころを同館学芸員が交代で解説します。



顕微鏡で拡大したアリアケカワゴカイの頭部。左上はあごを出す前。体の幅1.8mmほど



アリアケカワゴカイの生息地。干潟表面から有明海を望む  
=白石町の六角川河口付近



## 環境に適応、命つなぐ

有明海の干潟をスコップで掘ると、カニや貝類と一緒にゴカイが見つかることがあります。ゴカイはミミズやヒルの仲間。野鳥や魚の食物であり、釣り餌としてなじみ深い生き物です。体のつくりはミミズと似ていますが、いぼ足や毛があるのが特徴です。

### ▶有明海だけに分布

私は昨年夏から、県内を流れ有明海に注ぐ六角川の生き物について高校生と一緒に調べています。この川の河口から上流29kmの範囲では、潮の満ち引きにより水位が1日2回上下します。私たちは六つの地点で干潟の泥を採集し、そこにすむ生き物を採集しました。このときに、河口付近でアリアケカワゴカイ(ゴカイ科)を採集しました。

アリアケカワゴカイは日本国内では有明海だけに分布します。泥

## 干潟のアリアケカワゴカイ

の干潟に穴を掘ってそこにすみ、写真のように2本の大きなあごを出して食物を飲み込みます。冬、大潮の夜の満潮時刻になるとオスとメスが一緒に水中へと泳ぎだし、卵と精子を放出して受精するという方法で生殖します(生殖群泳)。ゴカイの仲間には巣穴に産卵する種もありますが、生殖群泳は有明海環境に適応しやすい生殖方法と考えられています。

これは、有明海の潮の満ち引きによる激しい水流が泥を巻き上げて干潟に酸素を与え、生き物が生活しやすい条件を作りだす一方で、巣穴を壊すことがあるからです。

### ▶誕生と絶滅繰り返す

何十億年も前に最初の生き物が誕生してから、地球では多くの形や生き方の生き物が現れては一部が絶滅するということが繰り返

### ①現生の動物

返されてきました。この歴史があって今があります。現生の動物とその生息環境について調べると、生き物がどのように環境に適応し命をつないできたかという疑問の答えに近づくことができます。今日のゴカイの話は、その答えのほんの一部です。

県立美術館の「いきもの いま・むかし」展ではアリアケカワゴカイの標本とゴカイの仲間の化石のほかにも、たくさんの動植物と化石が展示されています。この夏、皆さんも身近な生き物の命のつながりを調べてみませんか。

(県立博物館学芸課 滑川喜生)

▶「いきもの いま・むかし」は9月25日まで県立美術館2、3号展示室で。月曜休館、入場無料。